

## 広島県地域がん登録における5年相対生存率について

### 1 趣旨

平成14年10月から開始した「広島県地域がん登録事業」において、部位別の5年相対生存率を算出し、今年度発行の報告書で公表した。

### 2 背景

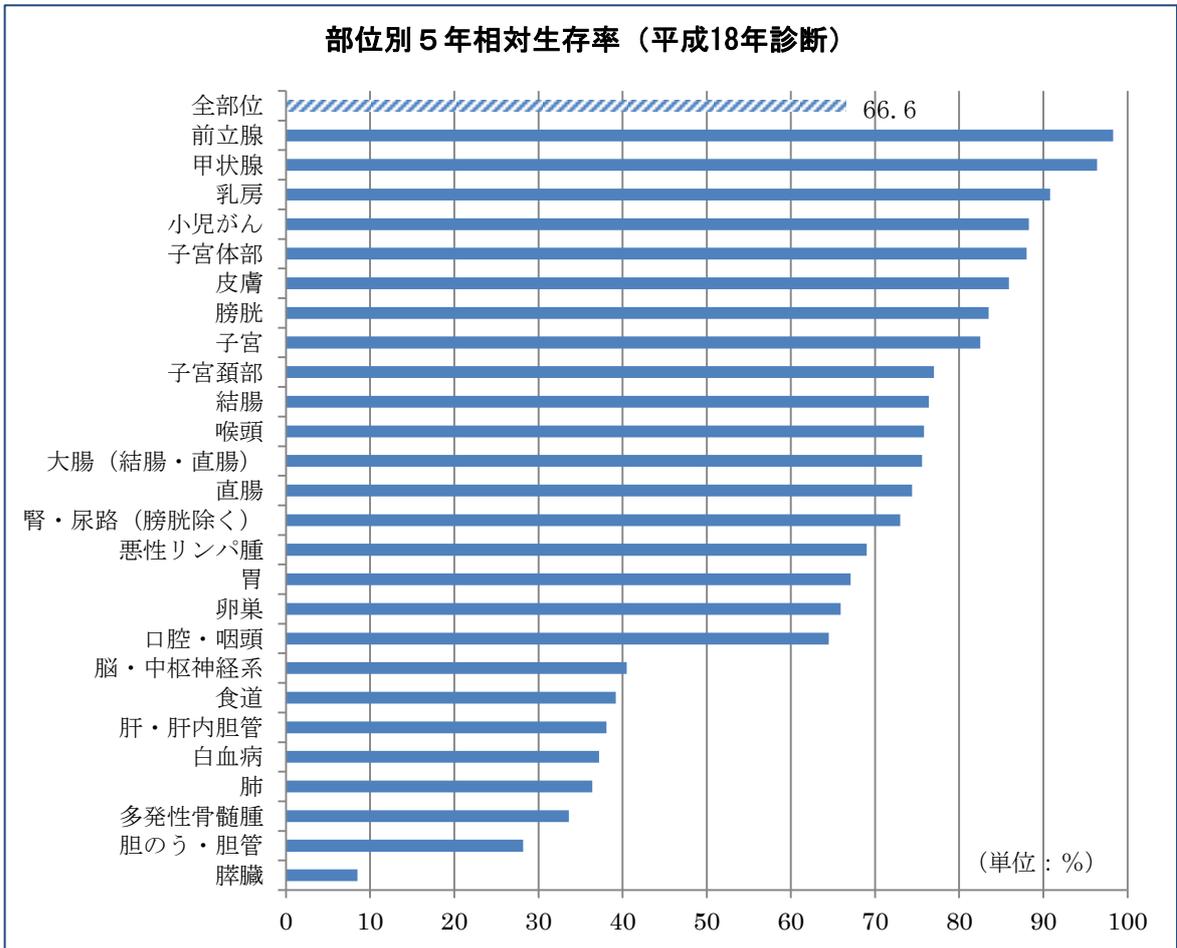
- 地域がん登録届出件数の増加等により登録精度が向上した。
- がんを登録された者に対する「住民基本台帳ネットワーク」を利用した生存確認調査(平成24年1月から開始)により、生死に関するデータの信頼性が向上した。

H24年 生存確認調査	H23年 ← 5年	H22年 4年	H21年 3年	H20年 2年	H19年 1年	H18年 診断
----------------	--------------	------------	------------	------------	------------	------------

### 3 5年相対生存率(平成18年診断)

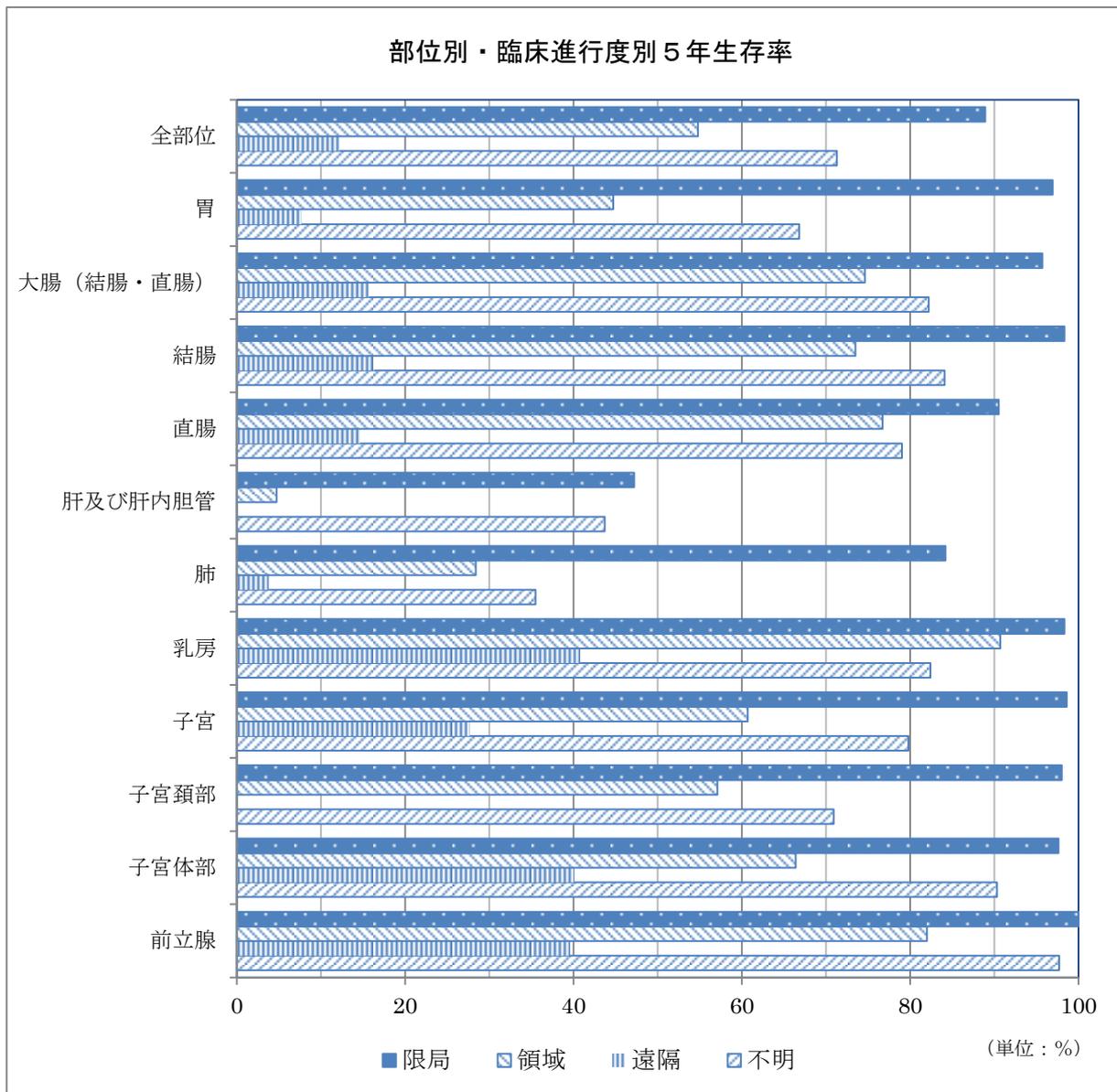
- 平成18年診断患者における、全がん5年相対生存率は66.6%であった。
- 部位別にみると、前立腺、甲状腺、乳房が90%以上、子宮体部、皮膚、膀胱で80%以上と高かった。胆のう・胆管が28.2%、膵臓は8.5%と極めて低かった。

がんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、日本人全体で5年後に生存している人に比べてどのくらいの割合かを示したもの。  
**【相対生存率】** = 実測生存率(がん患者) / 期待生存率(対象者と同じ性別・年齢の一般集団)



※ 診断から5年後に生存している確率であり、個々の患者について表すものではない。

- 臨床進行度別に見ると、「限局」群の5年相対生存率は88.9%、「領域」群では54.8%、「遠隔」では12.2%であった。
- 部位別に「限局」群の生存率を見ると、前立腺では100%であり、胃、結腸、直腸、乳房、子宮においても90%以上と良好であった。肺においても「限局」群は84.2%と比較的良好であったが、肝及び肝内胆管では47.2%と低かった。

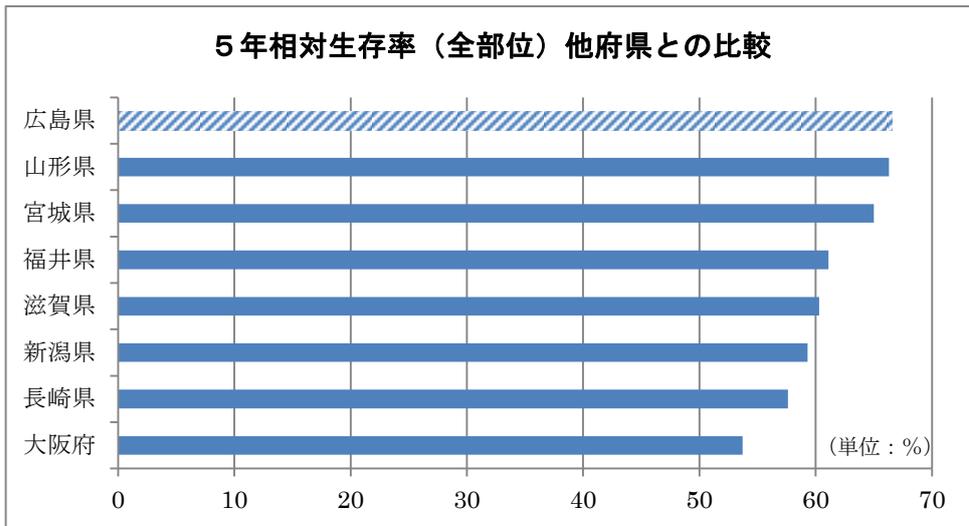


#### 4 今後の取組

- 5年相対生存率をはじめとする地域がん登録データを適切に情報提供し、広島県全体での取組を促進させる。
- がん医療を評価する指標の一つとして、広島県の医療水準の向上に活用する。
- 生存率の低いがんへの対策を強化するなど、がんで死亡する県民の減少に取り組む。

## 5 他の算出実施府県との比較

宮城県, 山形県, 新潟県, 福井県, 滋賀県, 大阪府, 長崎県 (7府県のみ)



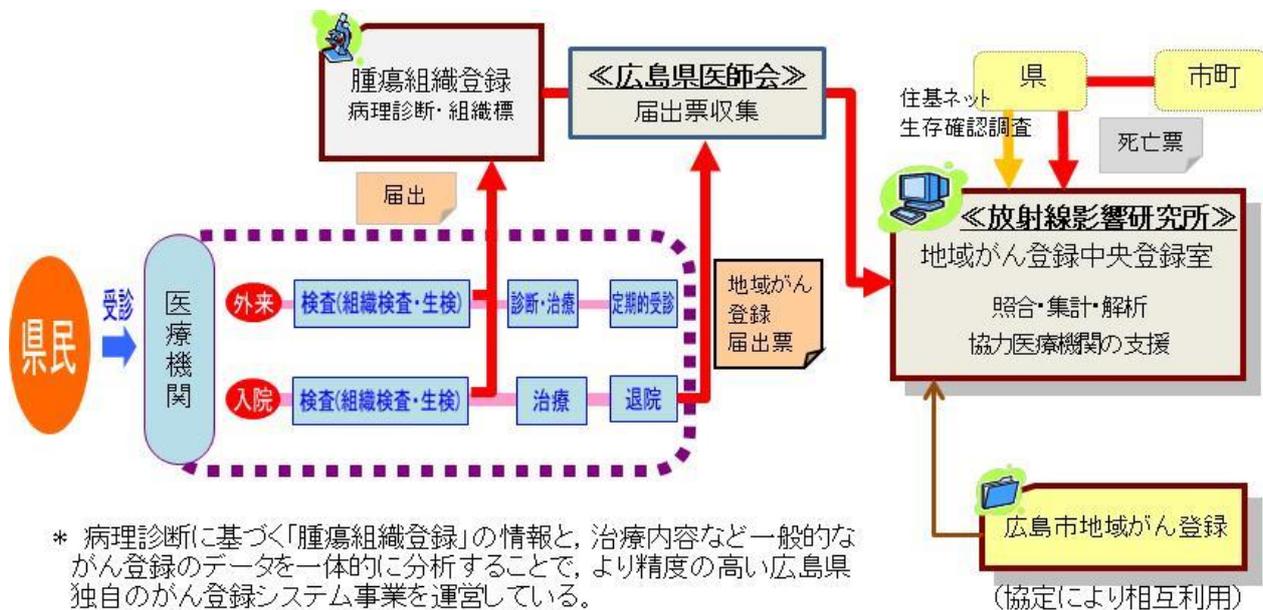
※ 他府県のデータは, 平成15~17年診断患者の5年相対生存率である。

## 6 地域がん登録の仕組み

(1) 実施主体 : 広島県

(2) 登録業務の流れ

- ① がんと診断した場合, 医療機関は, 病名や治療内容等に関する情報を届出る。  
〔収集業務: 広島県医師会に委託〕
- ② この情報をデータベースに登録し, 分析を行う。  
〔集計・解析業務: 放射線影響研究所に委託〕



\* 病理診断に基づく「腫瘍組織登録」の情報と, 治療内容など一般的ながん登録のデータを一体的に分析することで, より精度の高い広島県独自のがん登録システム事業を運営している。